

# 2012年度(2013年3月期) 第1四半期決算説明会



2012年7月31日

大正製薬ホールディングス株式会社  
常務取締役 酒井 明人



# 2012年度第1四半期決算：概要

(億円)

	2011年度 1Q	2012年度 1Q	前年同期比 増減	
売上高	643	678	+35	+5.5%
セルフメディケーション	399	414	+15	+3.9%
医薬	244	264	+20	+8.1%
営業利益	109	98	▲10	▲9.6%
経常利益	126	122	▲4	▲3.1%
四半期純利益	81	76	▲5	▲5.7%

注：金額は億円未満四捨五入



# 2012年度第1四半期の概況(1)

## • セルフメディケーション事業(国内)

### – 主要ブランドの動向:

- リポビタンシリーズ: リポビタンDは前年割れとなったが、シリーズ品はプラス  
夏に向けた取り組みを強化
- パブロンシリーズ: 総合感冒薬の伸びが寄与
- リアップシリーズ: 第1類販売店舗数減少の影響続く
- リビタシリーズ: 新製品の寄与もあり、引き続き好調

### <ご参考:市場の状況>

#### – OTC医薬品市場

2012年度1Q: 前年同期比▲2.6%

(インテージSDIデータ、金額ベース)



# 2012年度第1四半期 主要ブランド売上高

(億円)

	2012年度 1Q	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	176	▲5	▲3.0%
パブロンシリーズ	48	+1	+2.1%
リアップシリーズ	33	▲3	▲8.0%
胃腸薬シリーズ	10	+1	+11.4%
ナロンシリーズ	10	+1	+11.7%
コーラックシリーズ	9	▲0	▲2.6%
リビタシリーズ	13	+4	+38.0%

注:金額は億円未満四捨五入



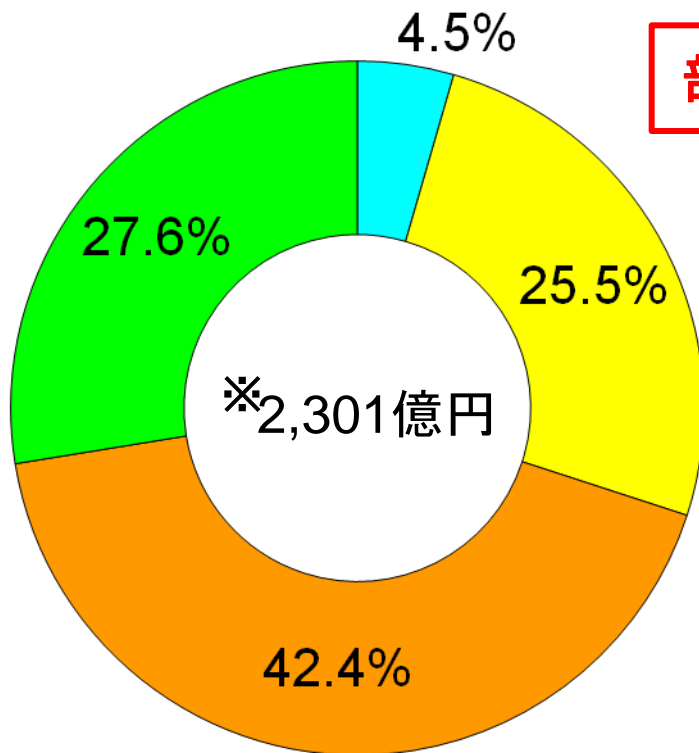
# OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く

(2011年4-6月)

(2012年4-6月)

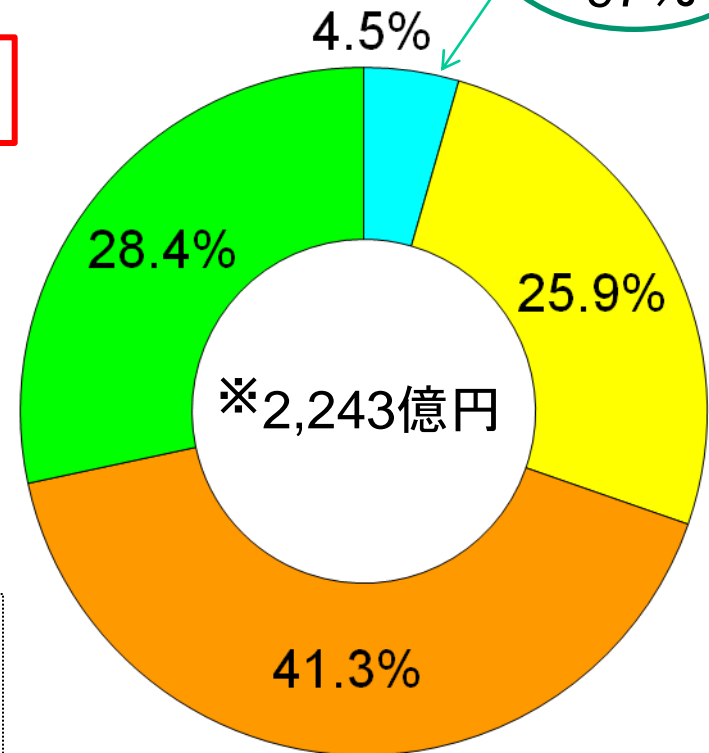
第1類の  
前年比  
97%



部外品を除く

前年比  
97%

- 第1類
- 指定第2類
- 第2類
- 第3類



(インテージSDIデータ2012年7月時点、金額ベース、各年4-6月累計)



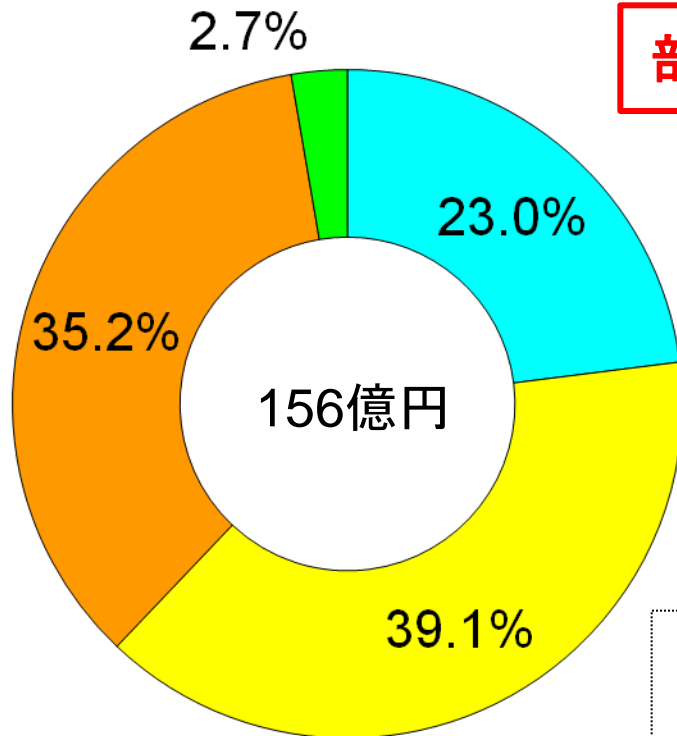
# 当社のOTC医薬品分類別売上構成比

2011年4-6月

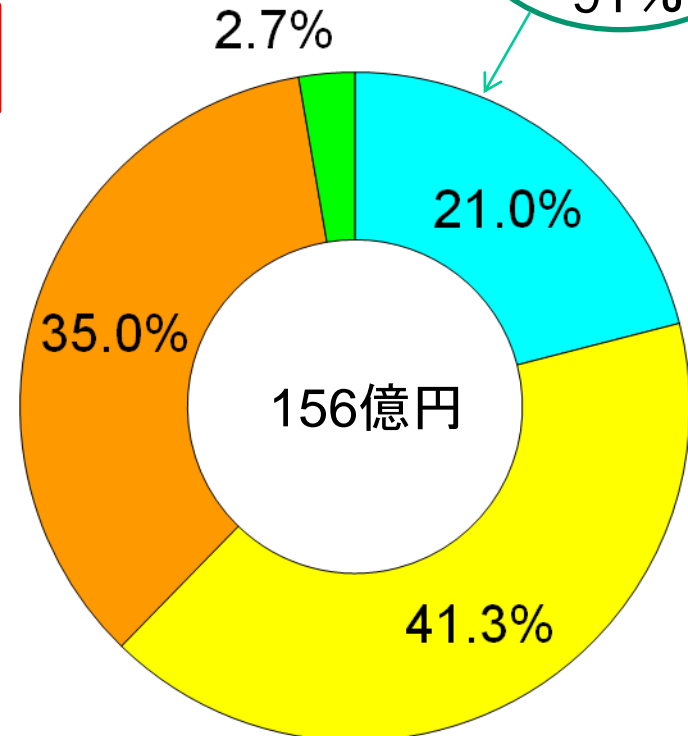
2012年4-6月

第1類の  
前年比  
91%

部外品を除く



前年比  
99%



- 第1類
- 指定第2類
- 第2類
- 第3類



# 2012年度第1四半期の概況(2)

## • 海外OTC医薬品事業

(億円)

海外OTC医薬品	2011年度 1Q	2012年度 1Q
売上高	13	20
BMS社からの買収分	13	14
Hoe社	-	6
営業利益	8	9
のれん償却等	5	7
のれん等控除後営業利益	3	2

注:金額は億円未満四捨五入

– タイ、インドネシアを中心に順調に推移、Hoe社分も寄与



# 2012年度第1四半期の概況(3)

## • 医薬事業

### – 大正富山医薬品:

- 売上高:238億円(前年同期比11.2%増)
- 感染症領域:ゾシン、オゼックスが引き続き好調  
クラリスは薬価改定の影響などにより苦戦
  - 大正富山医薬品の抗菌薬市場\*シェア:19%

(\*J01抗菌薬市場)

- 炎症・免疫領域:エディロールが長期処方解禁で伸長

### <ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場:前年同期比+2.1%
  - 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲4.9%  
(経口:▲4.6%、注射:▲5.3%)

(Copyright 2012 IMS ジャパン(株)、JPM2011年・2012年(4-6月)をもとに作成、無断転載禁止)



# 大正富山医薬品：2012年度第1四半期 主要製品売上高



(億円)

	2012年度 1Q	前年同期比 増減	
クラリス	43	▲4	▲9.1%
ゾシン	51	+12	+30.3%
パルクス	23	▲1	▲2.6%
ジェニナック	9	+1	+6.1%
オゼックス	19	+8	+70.1%
ロルカム	8	▲0	▲1.1%
エディロール	16	+10	+176.0%

注：金額は億円未満四捨五入



# 2012年度1Q：売上高・利益の増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (+35億円)	セルフメディケーション事業 (+15億円)	医薬事業 (+20億円)
営業利益 (▲10億円)	売上総利益* +14億円 (売上総利益率* 前年同期64.1%→当期62.8%)	
	販管費 +24億円	
	(内訳)	
	・研究開発費 +3億円	
	・販売促進費 +4億円	
	・広告宣伝費 +11億円	
・人件費 +3億円		
営業外損益：持分法投資利益 5億円(前期 1億円の投資損失)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

# 2012年度：通期業績予想



(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	予想 修正額
売上高	2,850	+138	+5.1%	2,785	+65
セルフメディケーション	1,772	+107	+6.4%	1,746	+26
医薬	1,078	+30	+2.9%	1,039	+39
営業利益	375	▲9	▲2.4%	370	+5
経常利益	445	▲17	▲3.7%	440	+5
当期純利益	290	+46	+19.1%	285	+5
EPS(円)	358.37	-	-	352.18	-
(参考)					
大正富山医薬品売上高	950	+19	+2.0%	930	+20

予=予想 注:金額は億円未満四捨五入

# (ご参考) 2012年度2Q累計予想



(億円)

	2Q 累計 予(新)	前期比増減		2Q累計 予(旧)	予想 修正額
売上高	1,390	+58	+4.4%	1,355	+35
セルフメディケーション	879	+37	+4.5%	874	+5
医薬	511	+21	+4.3%	481	+30
営業利益	170	▲33	▲16.2%	165	+5
経常利益	200	▲35	▲14.7%	195	+5
当期純利益	135	+7	+5.5%	130	+5
(参考)					
大正富山医薬品売上高	455	+24	+5.6%	431	+24

予=予想 注:金額は億円未満四捨五入



# 2012年度：業績予想修正

- セルフメディケーション事業

- 大正製薬の国内OTC医薬品売上予想は据え置く
- トクホンの完全子会社化を2Qより反映(+16億円)
- メキシコ製薬企業グループ(CICSA社等4社)買収分を下期より反映(+10億円)

- 医薬事業

- 大正富山医薬品の売上予想を修正(+20億円)
- トクホンの完全子会社化を2Qより反映(+19億円)

(億円)

	2012年度 旧予想	2012年度 新予想	対従来予想比	内訳
売上高	2,785	2,850	+65	
SM	1,746	1,772	+26	トクホン +16 メキシコ +10
医薬	1,039	1,078	+39	大正富山 +20 トクホン +19

# 2012年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2012年度 新予想	前期比増減		2012年度 旧予想
リポビタンシリーズ	710	+17	+2.5%	710
パブロンシリーズ	260	+2	+1.1%	260
リアップシリーズ	145	+3	+2.1%	145
ナロンシリーズ	43	+2	+4.5%	43
胃腸薬シリーズ	44	+1	+2.2%	44
コーラックシリーズ	41	+3	+5.4%	41
リビタシリーズ	45	+5	+11.6%	45
クラリス	195	▲21	▲9.5%	205
ゾシン	190	+14	+8.0%	185
パルクス	88	▲6	▲5.9%	88
オゼックス	70	+9	+14.0%	62
ジェニナック	61	-	-	61
エディロール	65	+47	+254.4%	40

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# トクホンの完全子会社化について



- 2012年7月2日 株式交換にて完全子会社化
- 2012年度決算には、7月以降の業績を取り込む  
(取り込み分:売上高35億円、当期利益1億円)
- 今後の展開:7月より検討開始
  - 当該カテゴリーの総合的な強化  
(OTC医薬品、医療用医薬品ともに)
  - 製剤技術の活用、研究開発の連携強化



トクホンの主要製品

# 2012年度通期：海外OTC医薬品事業



(億円)

	2011年度 実績	2012年度 新予想	前期比 増減
海外OTC医薬品	59	100	+41
BMS社からの買収分	49	55	+6
Hoe社	10	30	+20
CICSA社等4社	-	10	+10
その他	-	5	+5

- BMS社からの買収分は、計画に対し順調に推移
- Hoe社の業績は今年度から通期で寄与
- 期初から変更点

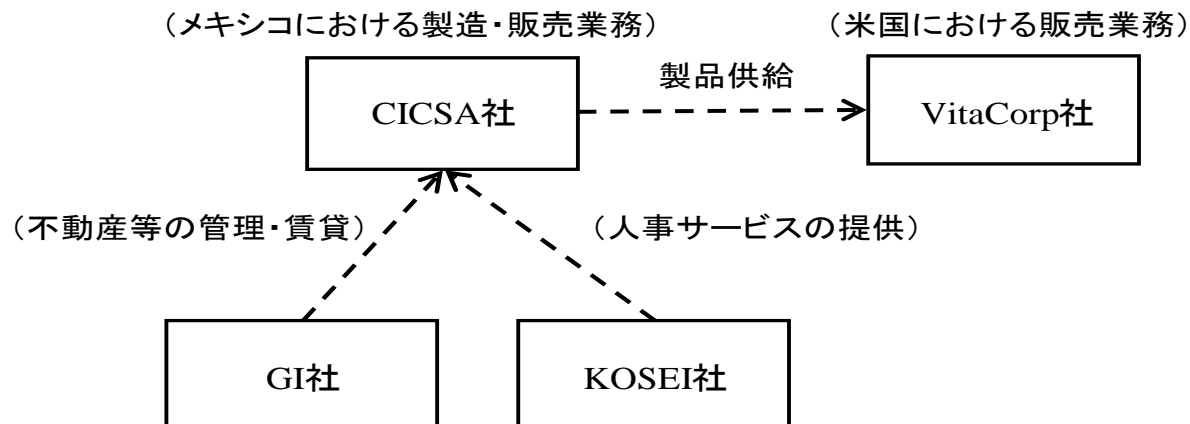
メキシコ製薬企業グループ(CICSA社等4社)分を反映





# 海外OTC医薬品事業の展開

- メキシコの製薬企業グループ4社の株式を取得(7月6日)
- 中核となるCICSA社は  
メキシコにおける代表的な製薬会社の一つで  
複数の有力な製品ブランドを有する
- 主力ブランドである「Vitacilina」  
メキシコの皮膚外用薬市場におけるマーケットリーダー
- 2012年度決算には7~12月の業績を取り込む  
(取り込み分:売上高10億円)





# 2012年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+138億円)	セルフメディケーション事業 (+107億円)	医薬事業 (+30億円)
営業利益 (▲9億円)	売上総利益* +64億円 (売上総利益率* 前年同期63.5%→当期62.7%)	
	販管費	+73億円
	・研究開発費	+11億円
	・販売促進費	+10億円
	・広告宣伝費	+12億円
	・人件費	+17億円
	＜販管費の従来予想からの増加は、新たに連結された トクホン、メキシコ分＞	
営業外損益：持分法投資利益 6億円(前期 12億円)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# セルフメディケーション事業：新製品

<2012年度の新製品（予定）>  
7月にリビタシリーズ2品を発売

## <上期>

ファットケア スティックカフェ

ミドルケア 粉末スティック

リポビタンシリーズ

治療薬（第1類医薬品を含む）

など

## <下期>

パブロンシリーズ

胃腸薬

外用薬

など

赤文字：発売済みの製品



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

パイプラインの変更点：CT-064(注射)を承認申請

大正製薬開発品：国内

(2012年7月31日現在)

	<u>特長他</u> 予定適応症	開発形態	オリジン
申請中			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ3			
TS-071** (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン

\*CT-064:

一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484

\*\*TS-071:

一般名：ルセオグリフロジン



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

(続き)

(2012年7月31日現在)

	<u>特長他</u> 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

\*CT-064:

一般名: イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484



# 研究開発費の動向

2012年度1Q実績:53億円(前年同期比+3億円)

→計画通りの進捗

2012年度計画:253億円(同+11億円):トクホン分2億円増加

